広島工業大学紀要研究編
第44巻（2010）pp.41-45
論　　文

城下町の形成と街道網の関係
――広島を事例として――

今川　朱美＊・小田　雄司＊

（平成21年10月31日受理）

A Study of the Castle Town Related to the Main Road Networks
――Case Study of HIROSHIMA――

Akemi IMAGAWA-SATO and Yushi ODA

(Received Oct. 31, 2009)

Abstract

City has different phases such as size, from, history and culture. Therefore, each city shows its characteristic, or color and scenery. But recently its identity has increasingly been lost because of introduction of innovational foreign culture and architecture.

In this paper, the author classifies urban structures forming city into some patterns. Hiroshima was a bridgehead constructed by Mohri Terumoto, the first lord of Chosyu clan, for military and political purposes. At first, the castle town of Hiroshima had vertically-structured blocks, and then it had vertically-and-horizontally-structured blocks, which prospered as a merchant town.

Key Words: urban structure, castle town, high street, vertically-structured blocks, vertically-and-horizontally-structured blocks

１．はじめに

都市とは，規模や形態，歴史や文化によって形成されるものであり，それぞれの都市ごとにその特性や景観は異なるものであった。しかし，戦後の都市は，都市施設の構成（＝都市を形づくる道路や鉄道，建物など）によって形づくられ，中心市街地に高層ビル群がならぶ北米型と言われるタイプのものが多く，都市のアイデンティティが喪失している。

本論では，特に近世日本の都市形成の基盤となった「城を中心として構成された都市＝城下町」に着目し，都市構造の分類を行なう。さらに，都市構造を分析することによって，向かうべき都市像の１つとしての，「コンパクトシティ」への道筋を探ろうというものである。

２．都市の誕生と発展の形態による分類

日本の都市建設の歴史は，古代の集落群造営に始まる。計画された都市としては，平城京（710年），長岡京，平安京（794年）といった首都（都）建設に始まっている。平安京は，首都が東京に移るまでの1075年間も日本の代表的な都市を形成してきた（表１- ｉ）。この間，各地に作られた国府や城下町も，平安京を模して建設された都市が多い。

中世（鎌倉～戦国）都市は戦国時代になってから，地方君主のもとに，城を中心とした市場の設けられた商工業内包型城下町と，宿場町，宗教寺院と門前町が発達を見せた。

近世（江戸時代）になると，封建制のもと，計画的な城下町が建設されるようになった。江戸をはじめとして，仙

＊ 広島工業大学工学部都市建設工学科

台，金沢，名古屋，彦根，熊本がこれに当たる。この時期の城下町は，城を中心として，武家屋敷，町人町，神社・寺院に区分された。江戸については，放射環状型の都市形態を取っている（表１- ⅱ）が，他の都市は格子状を基本型としている。

明治以降，近代国家を形成しても，都市の形態は旧来の城下町のまま人口が増加し，市街地が郊外に拡大することになった。日本の都市が欧米の都市計画制度や技術を参考に，銀座煉瓦街建設（1872 年）や，日比谷官庁集中計画（1886 年）がなされ，近代都市へ改変された。そして，東京市区改正条例の交布（1888 年）によって都市・鉄道・運河・橋梁・上下水道などの建設が，新しい技術を用いて行われるようになった。

都市計画法と市街地建築物法が交布（1919 年）されると，東京・大阪・名古屋・京都・横浜・神戸の６大都市をはじめとし，主要な都市では近代都市計画が行われることとなった。戦前は，街路・下水路・運河・水道などの面たる都市基盤整備が中心であったが，都市建築が鉄やガラスなどの新素材で建設されるようになると，欧米の建築様式が用いられ，大都市を中心に都市景観を変えることになり，日本の都市の無個性化に繋がったのである。

戦後の日本は 115 都市が戦災を受け，復興事業として，区画整理事業・街路事業・住宅建設が行われた。ここでさらに，各都市の個性は失われることとなった。

表１　日本における都市の発展パターン

ⅰ）格子型市街地	平安京にみられる 大都市の中心部に多く見られる
ⅱ）放射環状型市街地	江戸が顕著な例 中心都市に多く同心円的発展となるため，中心型の再開発を繰り返す
ⅲ）帯状市街地	発展の余地を延長上に求める 中小規模の都市に適する
ⅳ）多心型市街地	核が複数でき，まちを形成する
ⅴ）２眼中心型市街地	二拠点型の都市
ⅵ）不規則型市街地	市街地の集積が認められない

都市の構造は，地形と交通ネットワークによって形作られている。時代と共に交通形態も，牛車，馬車，車と変化をきたしたが，建設された街路や交通網を簡単に変えることはできなかった。唯一例外が，戦災都市の復興であった。基本的に，都市は発生時の形態を継承しつつ発展することになる。加藤[1)]によると，分類できる都市形態は表１に示す６つである。うち，大半の都市が表１- ⅰに分類されることは先に述べたとおりである。

とすれば，日本の都市のアイデンティティは，ここにあったのではないか。それらは，日本土着の「むら」から発展したものではなく，むしろ街道の結束点であったり，水運の利のある所など，地の利を得るために新しく計画された「まち」を起源とするものである。つまり，日本において計画されてきた市街地のほとんどが格子型であったため，そこにアイデンティティがあったのである。特に支配可能な規模での城下町は，支配者の構想によってさまざまな政治的，経済的事情が組み込まれており，時代や社会情勢を反映し，その結果，その都市ならではの都市基盤が整備されたのである。

３．城下町の類型（近世の社会・都市構造）

城下町の構造は，宮本[2)]によると，成立時期別に５類型に展開している。戦国期に城下町が誕生したときは，武家地，町人地，寺社などが混在しており，住み分けがなされていなかった。この時期の城下町の類型は「戦国期型（表２- １）」と呼ぶ。都市構造的にキーとなる城下町は，「総郭型（表２- ２）」である。城を中心に求心的構造を伴い，明確な区分によって計画的に配された町を総構えで囲繞し，城下町は完成をみる。姫路，大和郡山，松江，広島，津，鳥取などがこれに当たる。「内町外町型（表２- ３）」にあたるのが，彦根，徳島，岡山などである。内町と外町の区分が計画的になされており，町の呼称にもその事実をとどめている。「町郭外型（表２- ４）」は，関ヶ原の戦以降に建設された東国の城下町に多く見られる。松本・高田・勝山・山形・宇都宮・会津若松・福井・米沢がこれに当たる。

表２　外郭による城下町の類型区分

１）戦国期型	居住区分が未分化で分散的な配置をとる
２）総郭型	城下町全体を外郭で包囲する
３）内町外町型	町人地を外郭によって二分する
４）町郭外型	城と武家地のみを外郭で囲み。町人地，自社地，足軽屋敷を郭の外に配する
５）開放型	外郭が省略されている

権力が確固たるものでなくなったとき，都市もその構造をゆるやかに開放した。その結果，城下町としての態をなさなくなったのである。

とすれば，都市のアイデンティティの芽生えがあったとする城下町建設期の中でも，初期と末期を除く時期に日本らしい地域特性のみられる都市計画の集積があったと言えるのではないか。したがって，16 世紀中ごろより 17 世紀ごろに建設された城下町に的を絞って典型的な都市構造を解明する必要がある。

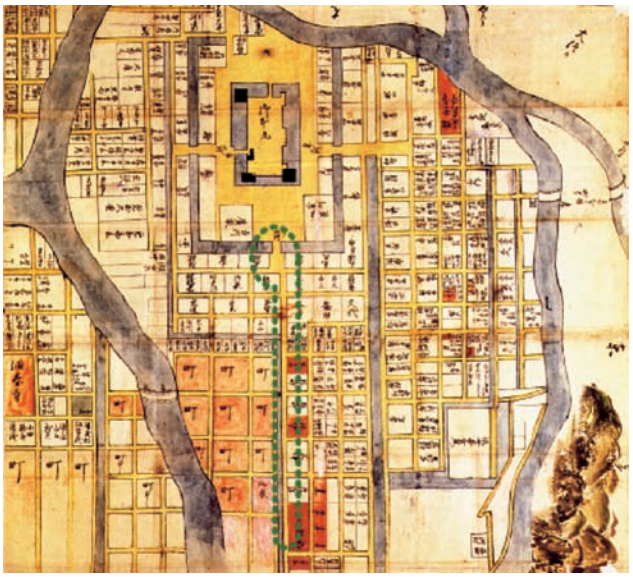

図１　広島城下町に見る縦町の特性[3)]

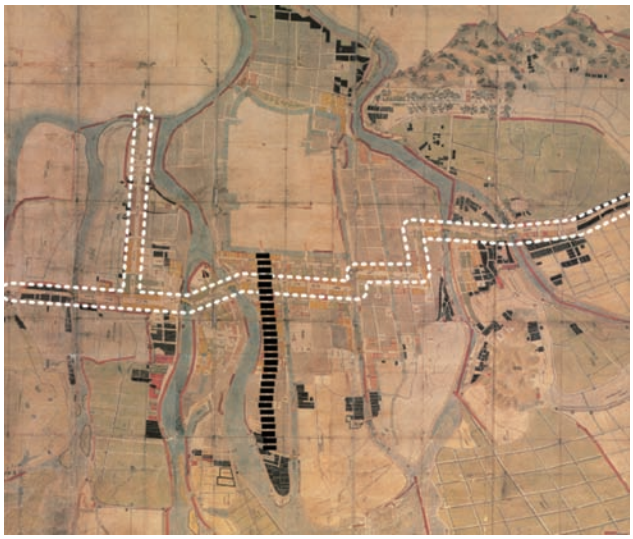

図２　縦町から横町への展開[4)]

４．縦町と横町

街路の構成によって城下町の類型を行うのであれば，縦町型と横町型に分類できる。城の大手門に向かう大手筋（大手通）が，城下を貫く主要な街道筋や目抜き通りとなる場合が縦町型で，大手筋と主要な道筋が交差する場合は城を正面にして，横に伸びる街路を中心とした関係となるため，横町型と呼ばれている。

縦町（または，竪町，立町）とは，町屋敷や武家屋敷の表口が連なる主要な通りに与えられた名称であった。大手門から始まり，城下町周辺部へと空間構造上の格差の認められる配列である（図１）。織豊期の城下町に多く見られる。

一方，横町は，城下を貫く街道筋が主要な通りと位置づいており，城を中心としつつも交通動脈を重視しており，町や街路に格差が生じず平等性が見られる。関ヶ原の戦い以降，徳川期の城下町に見られ，松江，府中，米沢，彦根，江戸などが挙げられる。

興味深い類型として，縦町型と横町型の混在する城下町も見受けられる。例えば広島は，縦町型として建設されたが，領主が変わって街道を導き入れたために，後世になって横町型に転じている（図２）。

縦町と横町が混在している例としては，広島以外にも，福井，姫路，伊賀上野などがある。これらの都市に共通して言えることは，かつて城下町は城を中心とした領土支配拠点（縦町）であったが，市場経済ネットワークに対応した構造（横町）に展開したことである。次章の広島城下町の構造でも述べるが，街道沿いに町民の住宅（兼店舗）が分布しており，横町の決め手となる主要な道路に商業の集積が確認できる。

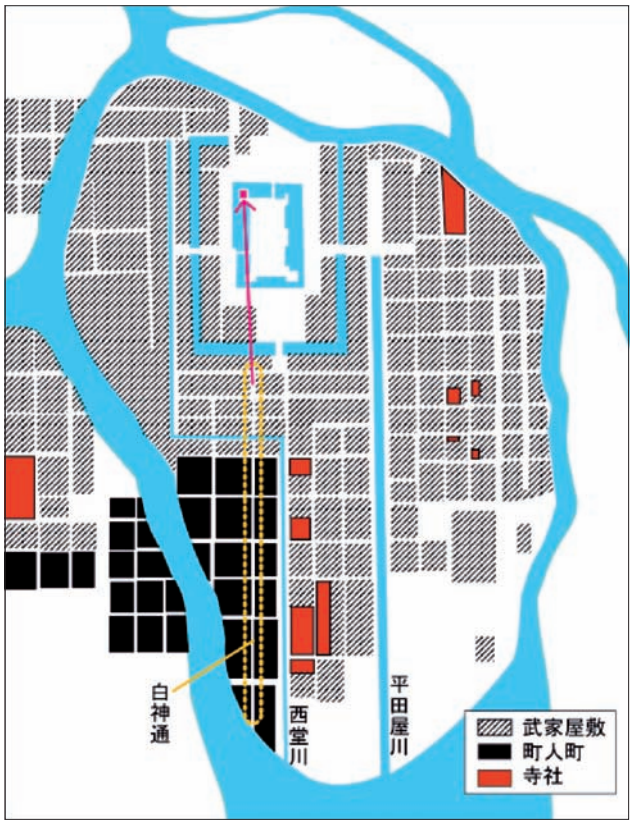

図３　毛利による建設当初の広島城下町[5)]

５．広島城下町の構築

厳島は古くからの内海交通の中継地であり，大陸交通にも連なり，京・堺等の商人もここに出入りして取引を行っていた。厳島神社参拝者も多く，信仰上の聖地，遊覧城の名勝ともなり，参集の人々を相手とする商工業とこれに伴う町の発達が見られた。すなわち，この地を手中に収めれば，内海交通の拠点のみならず，経済的利益も得られたのである。毛利氏は天正初年当時，すでに内海の海制権を握

り，その海賊衆を家臣団に収めていた。

一方，対岸の太田川河口部や周辺の広島湾頭一帯は海上，河川，陸上交通の結節点であり，特に五か村近くの草津港は重要な港として栄えていた。この太田川デルタ地帯は内海警固衆の拠点であるとともに郡山城の前身基地としての意義を高めていった[6)]。水運の重要性や海賊衆の統率など広島地域の軍事的政治的経済的重要性等，あらゆる意味で広島の太田川デルタ地帯に本拠を構える必要性があり，広島城とその城下町が建設されたのである。

毛利が広島城下町を建設した当初は，先述したように，縦町としての構造をみせていた（図３）。縦町は「領土支配拠点＝軍事」色が強く誇示される都市構造である。これは景観にも演出されている。城下町から天守閣を望むヴィスタの存在も，支配力を示すものであり，目抜き通りの正面に天守が見通せるように計画されていた。建設当初より，白神通（現鯉城通）の視線を遮るものが広島城となっていたのである（図４）。また，広島では平田屋川と西堂川が水運の便を開くため町筋に直接運河が引き入れられた。運河沿いには尾道町・塩屋町・西魚町・東魚町等の商人町が位置した。この運河と白神通とそのヴィスタにより広島城下は縦町として町が構成されていった。

図４　鯉城通を北向きに天守閣を望む（2009.10 撮影）

毛利氏築城時には，本丸・二の丸を中心とした郭内に，一族家老の屋敷が設けられた。その外側の北・東・西に中級・下級の侍屋敷が配された。町人の住む区域は侍屋敷と区別され，大手門正面から南に伸びた白神通を中心に城郭の南方と西南方に設定された。当時，城下町の構成としては，商人町と職人町を明確に分けることが常であったが，広島は例外的に，街道沿いに集積した町人町の間隙を縫うように職人町が設定された。これは材料調達に便利な場所に散在させる方法をとったからであると考えられる（図３）。

毛利氏に代わって入封した福島正則は家臣の数が少なかったこともあり，侍屋敷の区域を縮小し町人住居の区域を広げることができた。大幅に拡充され，より自由で開放的な性格を持つ町人町をつくりあげた。また西国街道を城下に引き込んだことにより，町人町はよりにぎわいをみせ

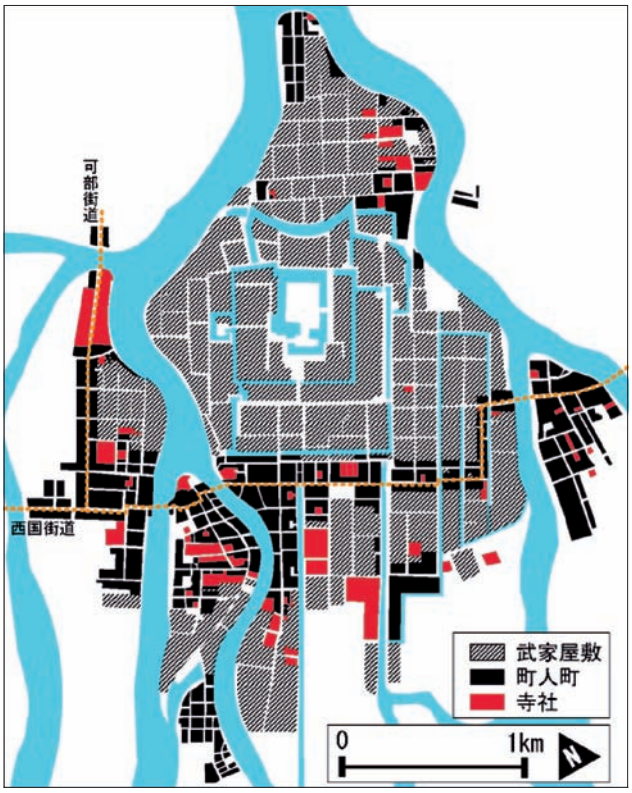

図５　福島による都市改造後の広島城下町[7)]

た。これに応じて近辺が市街化していくとともに，創設時代の城南に営まれた町は，さらに南方に拡大することとなった。ことに東西の西国街道沿いとその近辺は町人町と化し，京橋の東の段原村・比治山村などの一部から猿猴橋町に至るまでと，西の広瀬村の一部から小屋新町までが町となった。毛利氏の時代には武家屋敷に対して町人町は1/5 程度であったが浅野氏の時代には武家屋敷の面積に対しその５割近くが町人町になっており，町人町の分布の変化をみれば街道がまちの発展に影響したことは明らかである。（図５）[8)]。

西国街道沿線が盛んになったことで，これまで目抜き通りであった白神通りや水運を担ってきた平田屋川，西堂川よりも街道沿いが重要視されるようになった。その結果，本来縦町構造であった広島城下は，縦町型と横町型が混在する城下町へと変わったのである。

７．まとめ

城下町は，築城時期により，その城下町の構造が異なる。①防衛に重点を置いて計画された城下町。②あるいは，城主の権力を誇示するために計画された城下町。③ある程度世の中が安定し，流通による他の城下町との経済活動が活発になるように計画されたまちがある。広島城下町の場合は，城主の交代とともに構造が変化し，都市そのものが時代の流れにあわせて変化をきたしている。

現在でも，旧西国街道沿線，特に本通り商店街は，商業

の中心地であり，福島の広島城下町の構造を受け継いでいることがわかる。

註

1）文献１　p.15
2）文献４　pp.170-173
3）文献８　p.14「芸州広嶋城町割之図」に加筆
4）文献９　付図「広島町新開絵図（1728)」に加筆
5）文献８　p.14「芸州広嶋城町割之図」より作図
6）文献６　pp.292-296
7）文献９　付図「広島城下町絵図」より作図
8）文献６　pp.302-311

参　考　文　献

1）加藤晃「都市計画概論第５版」共立出版，2001
2）高橋康夫・吉田伸之「日本都市史入門（Ⅰ）空間」東京大学出版会，1989
3）高橋康夫・吉田伸之「日本都市史入門（Ⅱ）町」東京大学出版会，1990
4）高橋康夫, 他３名「図集日本都市史」東京大学出版会，2001
5）矢守一彦「城下町のかたち」筑摩書房，1988
6）広島市「新修広島市史　第一巻　総説編」広島市，1961
7）中国新聞社「広島城四百年」第一法規，1989
8）財団法人広島文化財団　広島城「広島城と毛利氏の居城」広島市市民局文化スポーツ部文化財課，2008
9）広島市「図説広島市史」広島市，1989
10）広島県「広島県史近世２通史Ⅳ」広島県，1984